

# 整備の方向性

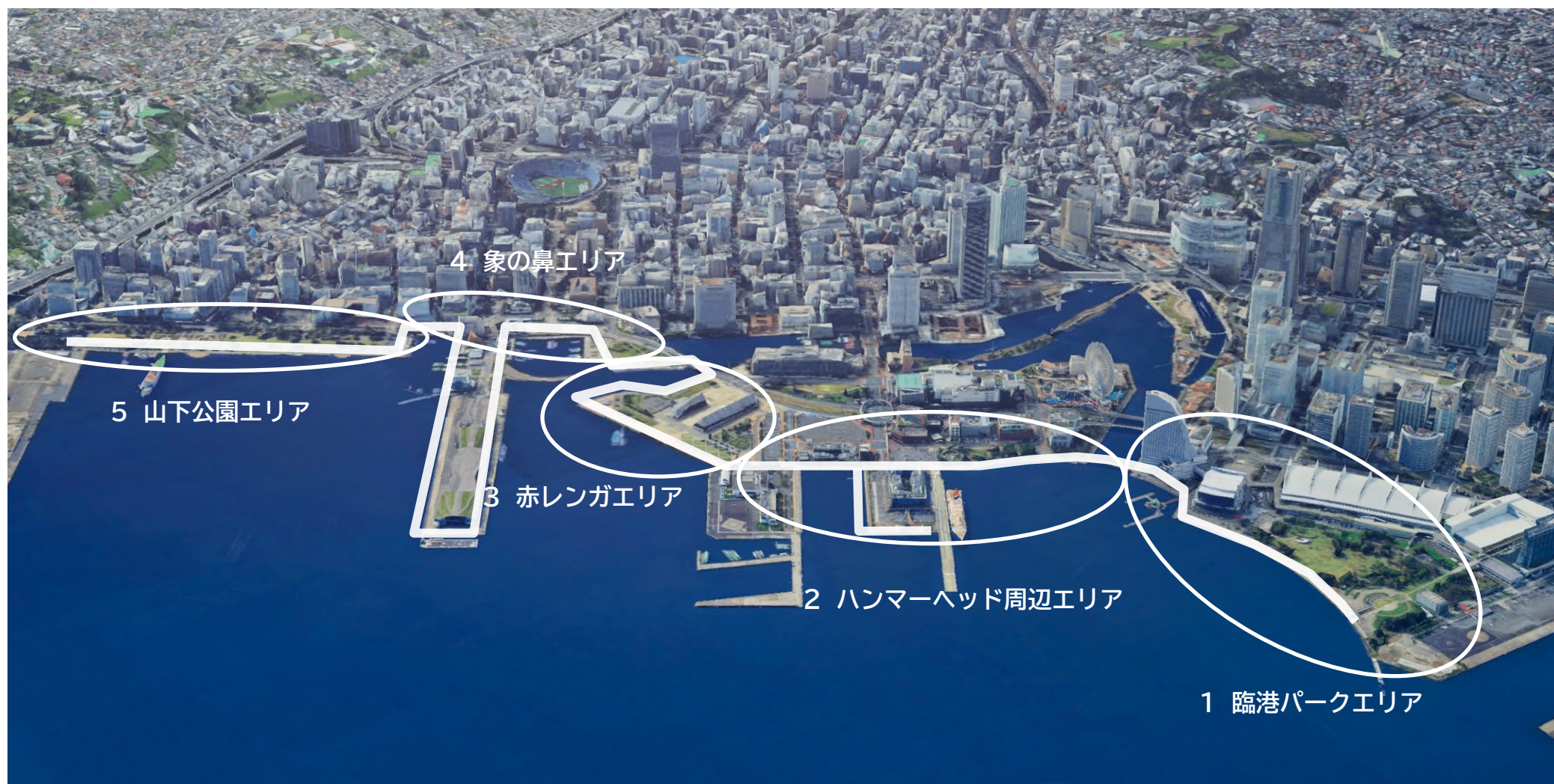


## 5つのエリア

水際線を5つのエリアで、それぞれの特性を活かしながら魅力を高めるまちづくりを進めていきます。

- 1 臨港パークエリア
- 2 ハンマーヘッド周辺エリア
- 3 赤レンガエリア
- 4 象の鼻エリア
- 5 山下公園エリア

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。



画像 ©2025 Google、地図データ ©2025



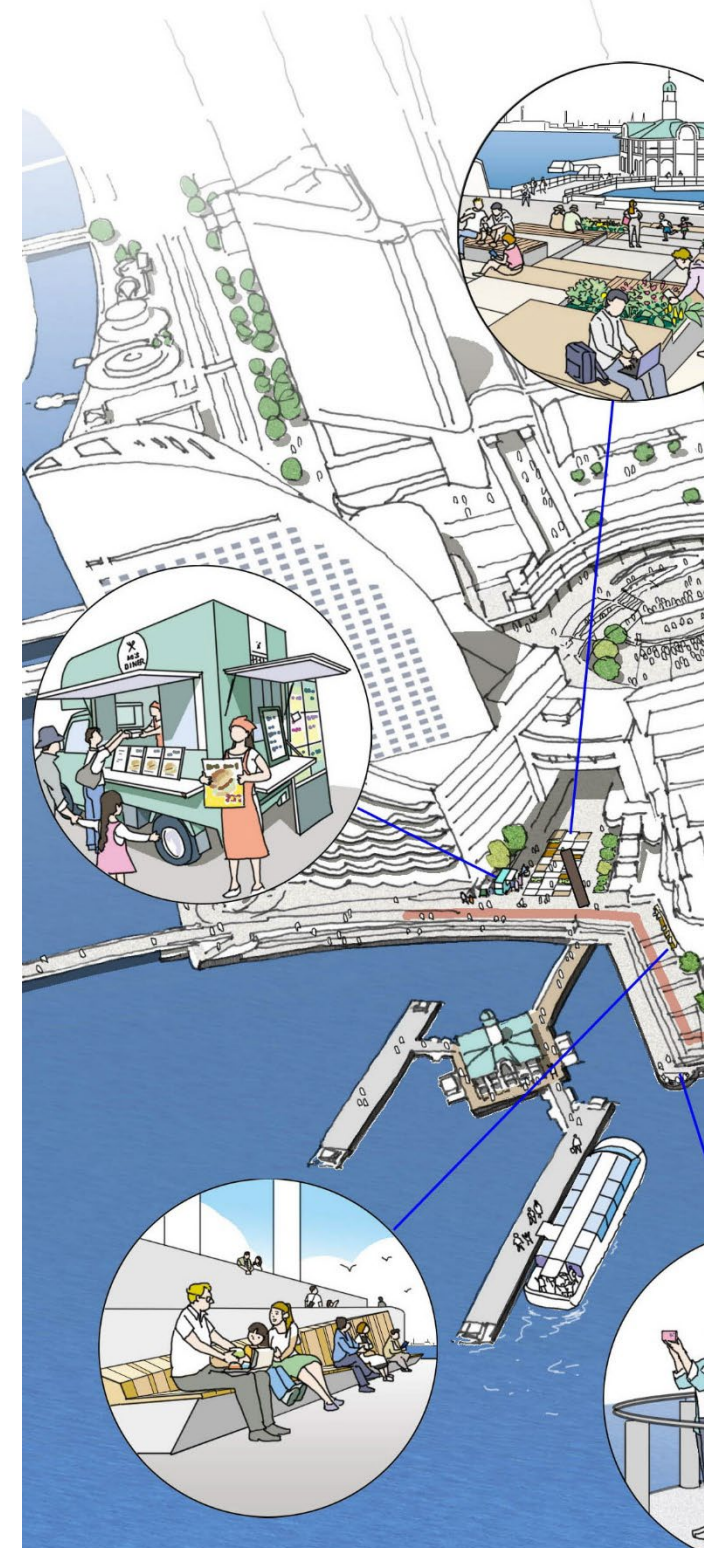
## 5つのエリア



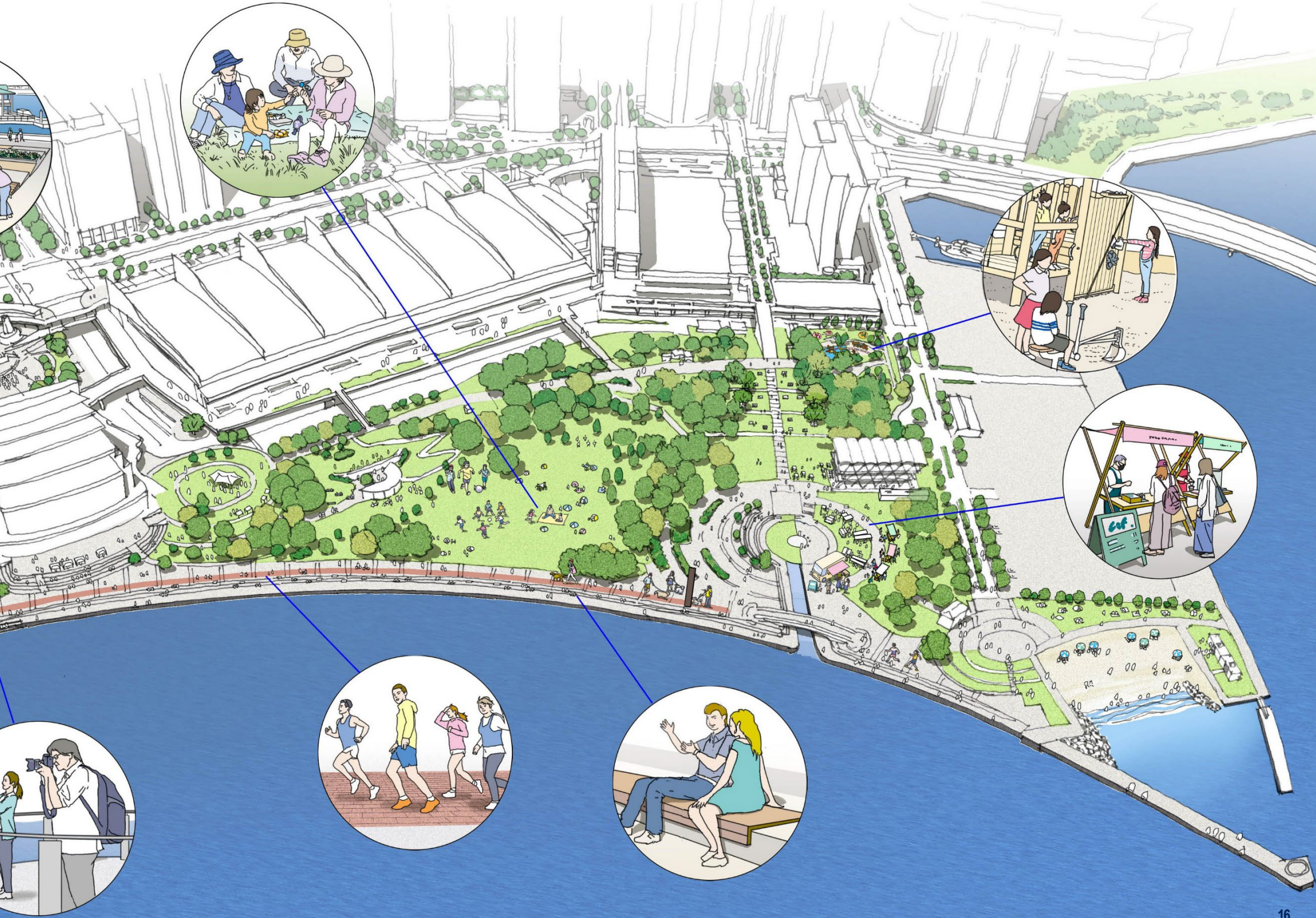
### 臨港パークエリア

臨港パークエリアは、水際線随一の広さを誇る開放感あふれる緑豊かな場所です。  
ピクニックやジョギング、犬の散歩など、子どもからシニアまで、多くの市民に親しまれています。  
訪れる人々が思い思いのスタイルで楽しめる緑地として、居心地の良さを高めていくとともに、エリア内にある横浜ティンバーワフやぶかりさん橋などの滞在施設、広々とした芝生広場、美しい海辺の眺望を活かした花火大会やナイトマーケットといった多彩なイベントなどにより、市民をはじめ、観光客や隣接するMICE施設に訪れた人も惹きつける場所としての価値も高めていきます。  
日常の憩いと特別な体験が共存するエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。









## 1. 臨港パークエリア



view 01 : 子どもから大人まで憩える空間の創出







view 02 : 水際線へ誘う動線の強化



## 1. 臨港パークエリア



view 03 : 滞在場所と歩行者動線の整備







view 04 : 先へと誘う空間づくり



view 05 : ビュースポットの設置



## 1. 臨港パークエリア

パシフィコ横浜  
国立大ホール

ロングベンチの設置

舗装の整備

視点場の設置

view 06 : エリアのつながりの強化





## 新たな魅力と集客施設



臨港パークに訪れた来街者が、飲食やレクリエーションなど、多様な過ごし方ができる新たな魅力集客施設を整備するとともに、パシフィコ横浜や臨港パークに訪れた方々が、MICEやイベントの前後に周辺施設を巡り、飲食などを楽しめるよう、施設と連携した取組を推進していきます。



### 1. 横浜ティンバーワーフ

水際線の景色を楽しめるカフェ、レクリエーション施設として、2025年10月にオープン。夜空の下で映画を楽しんだり、季節ごとのイベントでにぎわいを創出します。

### 2. 臨港パーク 来街者施設

豊かな自然に包まれながら、心安らぐひとときを過ごせるカフェや、アウトドアアクティビティを楽しめる場を創出します。

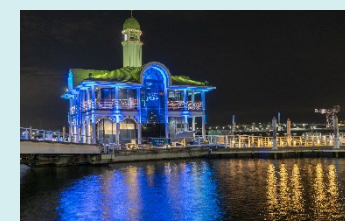
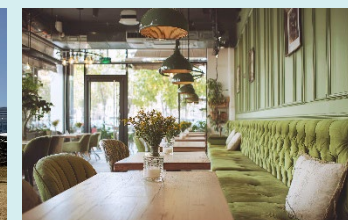
### 3. ぷかりさん橋 (みなとみらいさん橋及び同付属旅客施設)

音楽とともに上質な時間を過ごせるバー、海風を感じながら過ごせるテラス席の設置など、日常から少し離れたラグジュアリーな体験ができる場を創出します。

外観



活用イメージ





## 5つのエリア



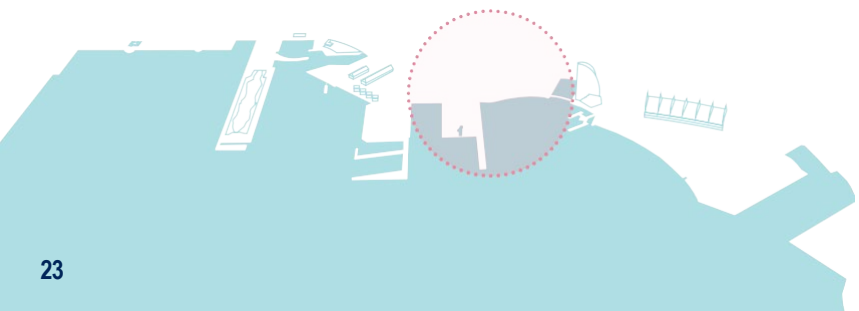
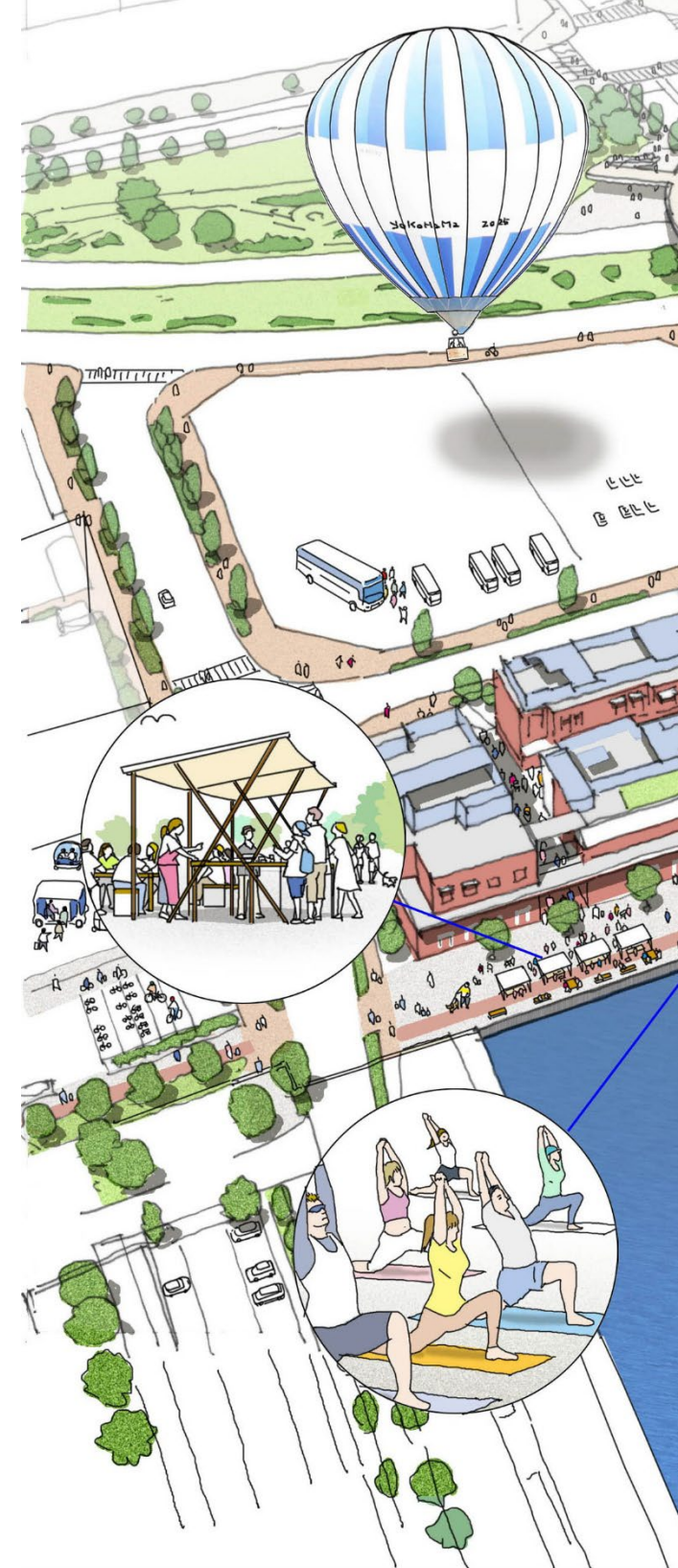
# 2

## ハンマーヘッド周辺 エリア

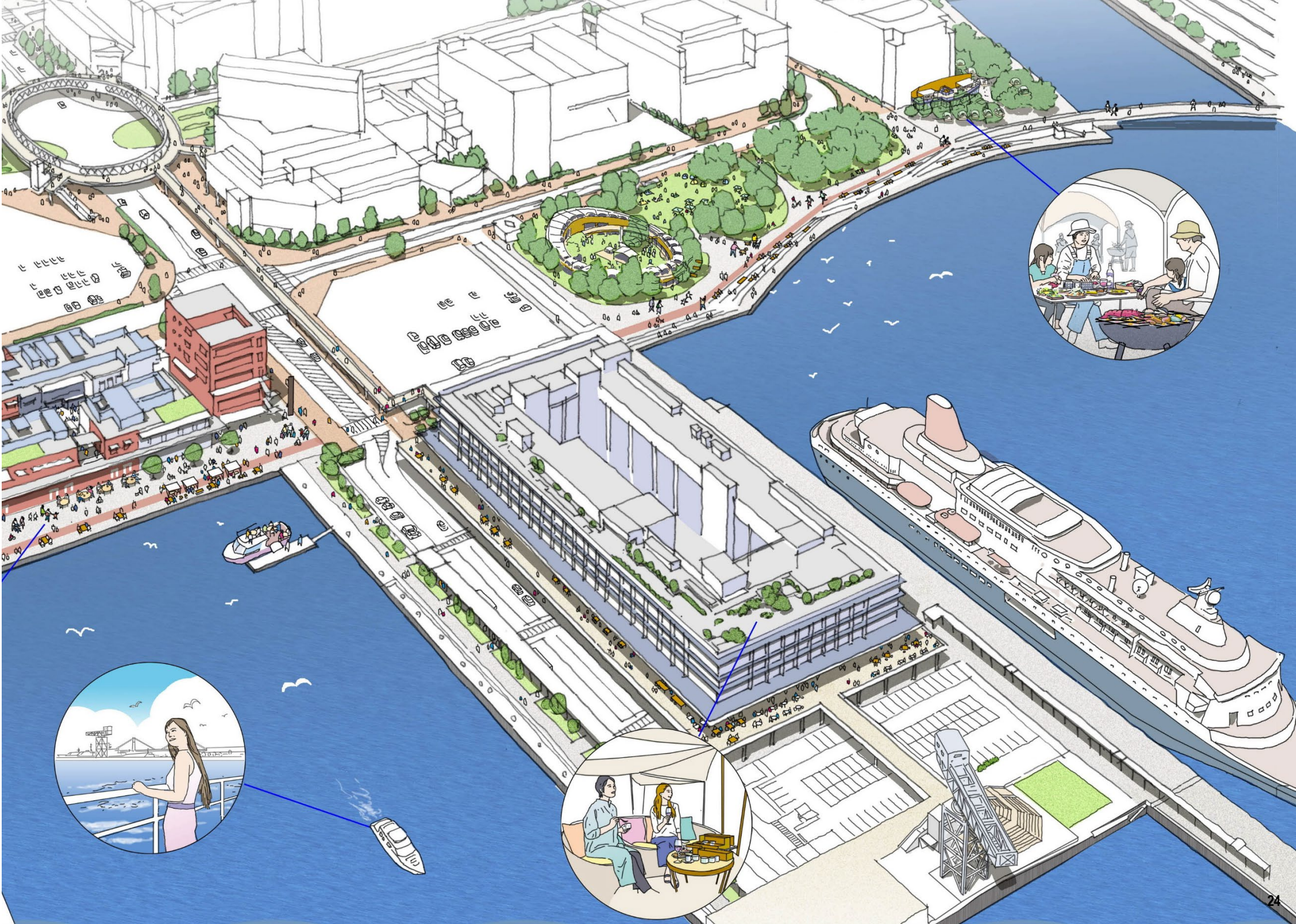
ハンマーヘッド周辺エリアは、海を身近に感じられる場所に、商業施設や客船ターミナル、ホテルなどの多様な施設が立地する場所です。

新港ふ頭客船ターミナルに停泊するクルーズ船などの横浜らしい景色を見ながらくつろいだり、海と緑に囲まれてグランピングを楽しんだりできる場を創出するとともに、海辺での朝食やモーニングクルーズなど、朝の時間帯を満喫できるコンテンツの充実、オープンテラスやマルシェなどでにぎわう空間の創出により、水際線ならではの多様な体験ができるエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。









## 2. ハンマーヘッド周辺エリア

### 【カップヌードルミュージアムパーク周辺】



view 01 : 連続性のある歩行者空間の創出

### 新たな魅力・集客施設

### グランピング施設

緑や桜と海の眺望を活かした新たな滞在空間とにぎわい施設の整備により、集客機能を強化するとともに、周辺のプロムナードを歩いている人をはじめ、水際線を訪れた方々に立ち寄ってもらえる施設に拡張していきます。





【横浜ハンマーヘッド周辺】



view 02

【MARINE & WALK YOKOHAMA周辺】



view 03

公共空間を活用したにぎわいづくり



## 5つのエリア



# 3

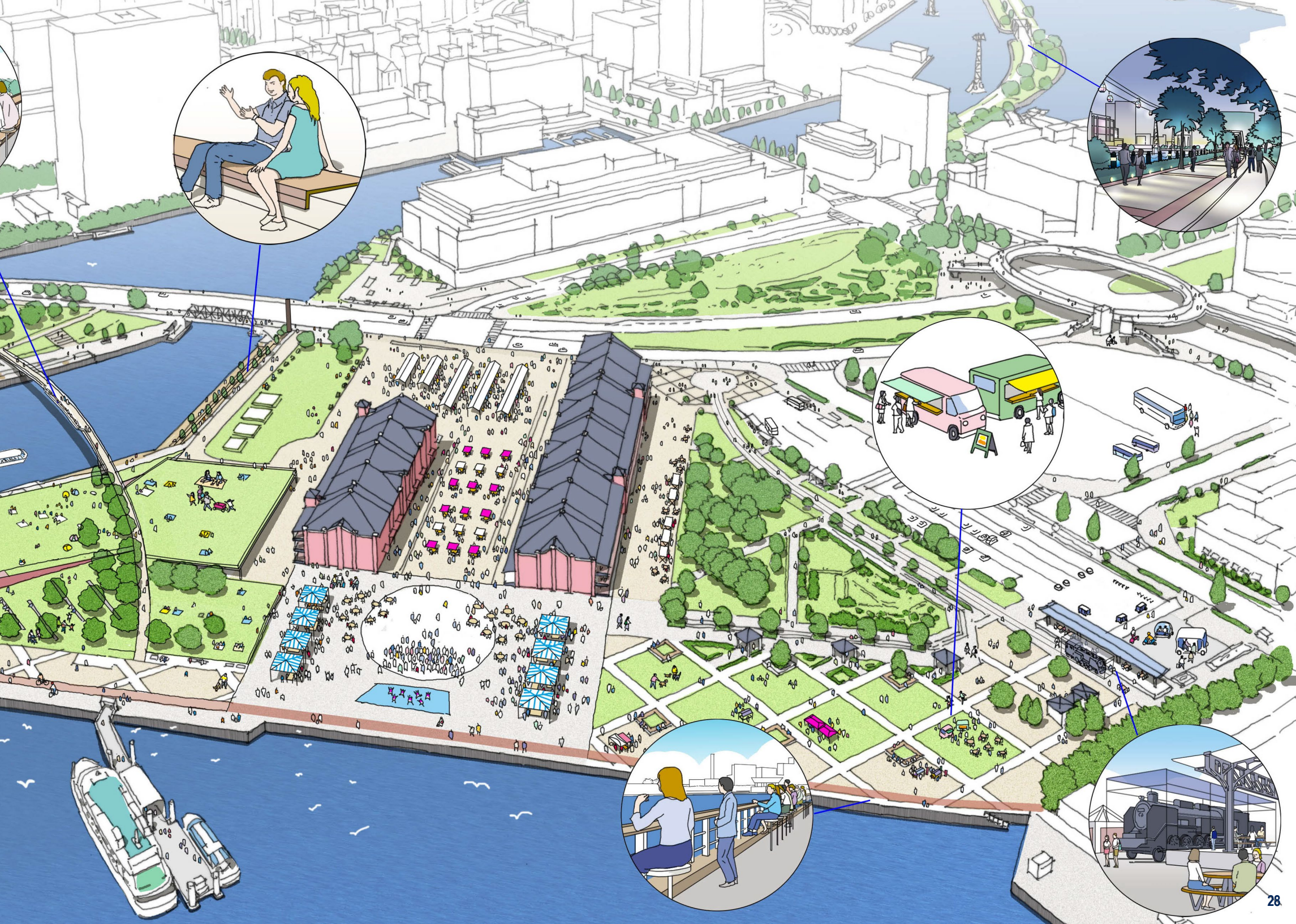
## 赤レンガエリア

赤レンガエリアは、年間を通して常に多くの人々でにぎわう、水際線随一の集客力を誇る場所です。蒸気機関車の展示など、横浜の近代化の歴史に触れることができる新たな魅力スポットを創出していきます。さらに、水際線の象徴となる新たなグリーン空間を創出するとともに、赤レンガから象の鼻パークへとつながる、港のパノラマを望めるペDESTリアンブリッジやにぎわい施設を一体的に整備していきます。赤レンガパークに新たに生まれる魅力的な空間によって、さらに多くの人々が足を運びたいエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。









### 3. 赤レンガエリア



view 01 : 歴史に触れられる新たな魅力スポットとして再整備





## 魅力スポットの紹介

## 旧横浜港駅プラットフォーム

横浜港駅は新港ふ頭と当時の横浜駅（現在のJR桜木町駅）を結ぶ「横浜臨港線」として1910年に開通し、東京駅から汽船連絡列車が乗り入れ、国際的な玄関口として重要な役割を果たしていました。

現在は赤レンガパーク内にプラットフォームの屋根や構造が復元され、歴史的建造物として保存されており、ベンチに座りながら当時の雰囲気を感じることができます。



view 02 : 海の眺望を楽しめる空間の創出



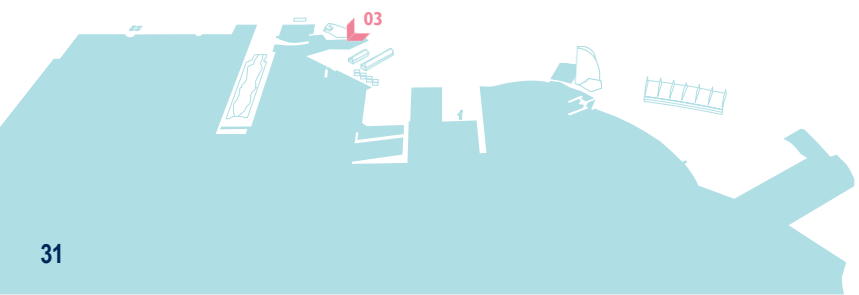
### 3. 赤レンガエリア

#### 新たな魅力・集客施設



#### 水際線の象徴となる緑とにぎわい空間の創出

市民や来街者が憩い、昼も夜も港のパノラマを望める抜群のロケーションを生かし、水際線の新たな象徴となる緑と海に包まれた空間を創出するとともに、新たなにぎわい・集客施設も一体的に再整備していきます。







view 03 : 赤レンガパークと象の鼻パークの回遊性の向上



## 5つのエリア



# 4

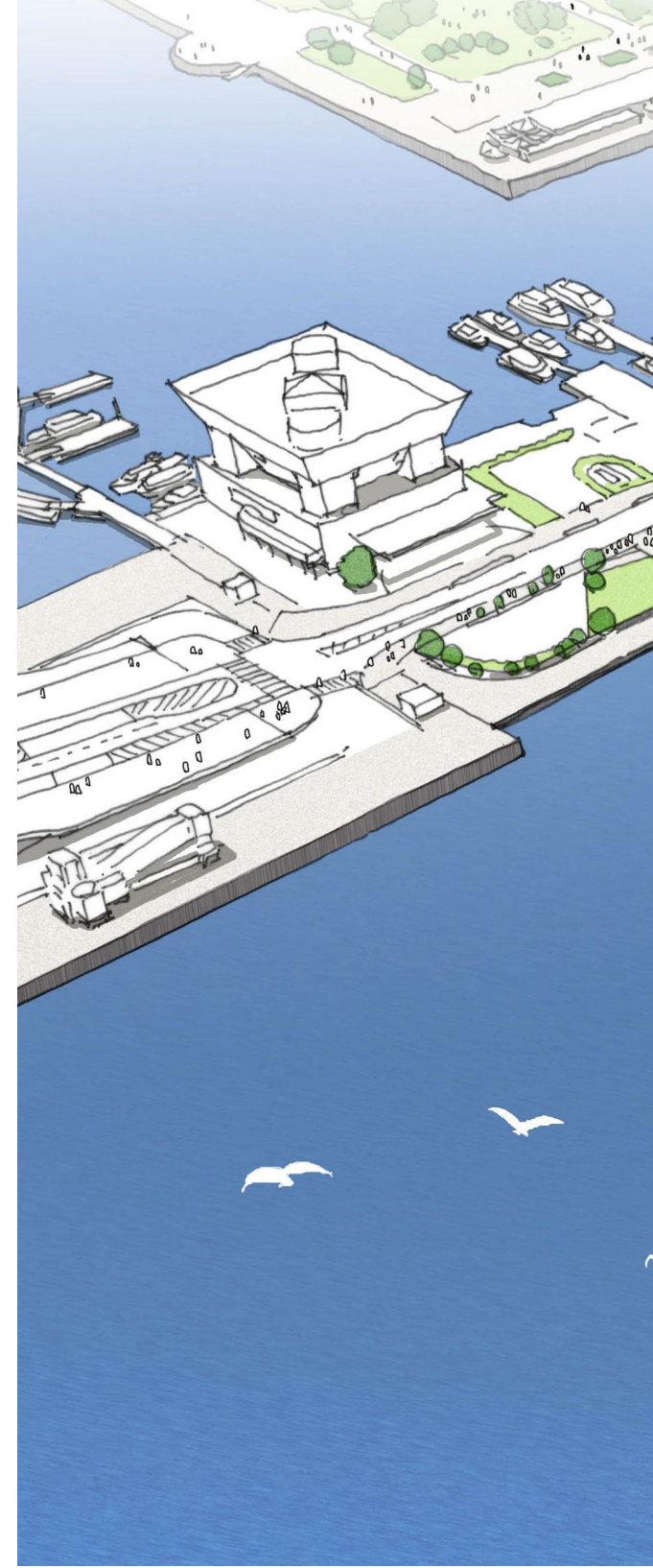
### 象の鼻エリア

象の鼻エリアは、日本大通りやみなと大通りなどのまちなかを結ぶ道路につながっており、まちや水際線に向かう人々が行き交う場所です。

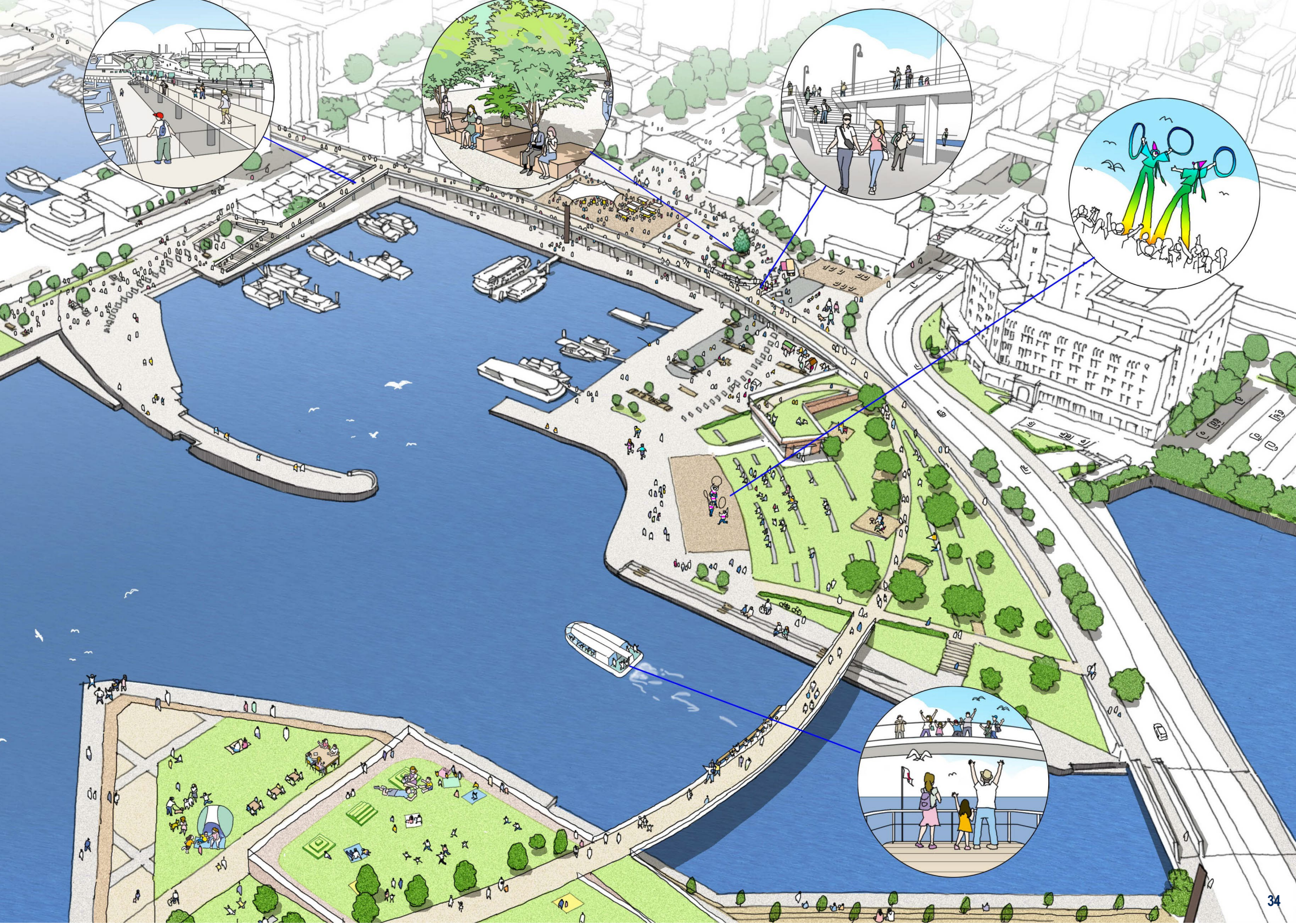
赤レンガエリアと象の鼻エリアをつなぐペDESTリアンブリッジの整備に加えて、山下臨港線プロムナードから日本大通りや大さん橋へとスムーズにアクセスできるスロープや階段を整備することで、回遊を促進していきます。

また、象の鼻テラスのリニューアルや思わず足を止めたくくなるような魅力的なイベントを展開することで、更に多くの人々を惹きつけるエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。





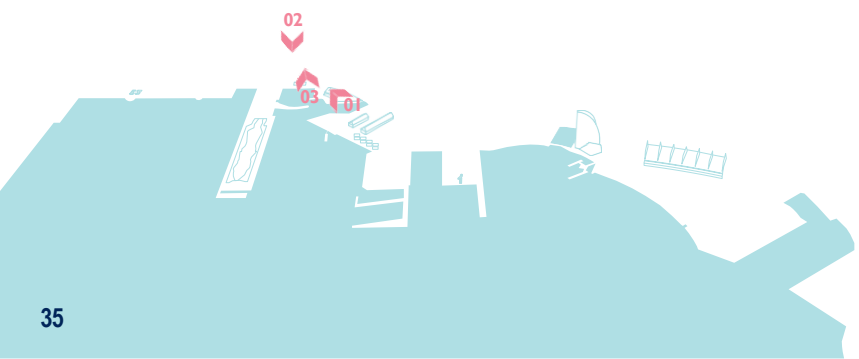




## 4. 象の鼻エリア



view 01 : 象の鼻テラスのリニューアルを契機としたにぎわいづくり



### 新たな魅力・集客施設



### 象の鼻テラスのリニューアル

海辺のロケーションを活かした人々が集う交流の拠点として、海風と緑が心地よいカフェや誰もが楽しめる多様なプログラムを展開し、新鮮でクリエイティブな時間と体験を提供する施設へとリニューアルしていきます。



Photo : Katsuhiro Ichikawa





view 02 : 周辺エリアへの回遊性の向上



view 03 : 新たな木陰の創出による休憩スペースの整備



#### 4. 象の鼻エリア

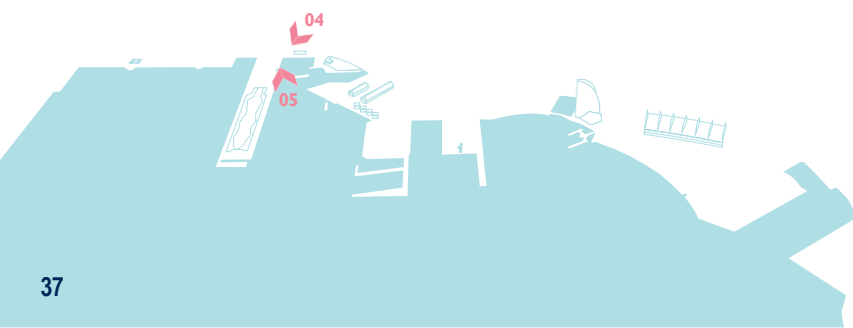


view 04

大さん橋方面へのアクセス強化



view 05





## 魅力スポットの紹介



## 大さん橋（横浜港大さん橋国際客船ターミナル）

横浜港大さん橋国際客船ターミナル、通称“大さん橋”は、開港以来130年の歴史を誇り、世界各国のクルーズ船が寄港する世界でも有数の客船ターミナルです。

また、市民が誇れる横浜港のシンボルとしても親しまれ、「ヨルノヨ」や「大さん橋マルシェ」などのイベント開催時には、多くの来訪者でにぎわいます。

波をイメージした独創的なデザインの屋上「くじらのせなか」からは、横浜ベイブリッジやみなとみらいを一望でき、夜には幻想的な光景が広がります。クルーズ船を間近で見られる開放的な空間は、普段味わえない「非日常の体験と感動」を味わえるスポットです。



Photo：（一社）夜景観光コンベンションビューロー



## 5つのエリア



# 5

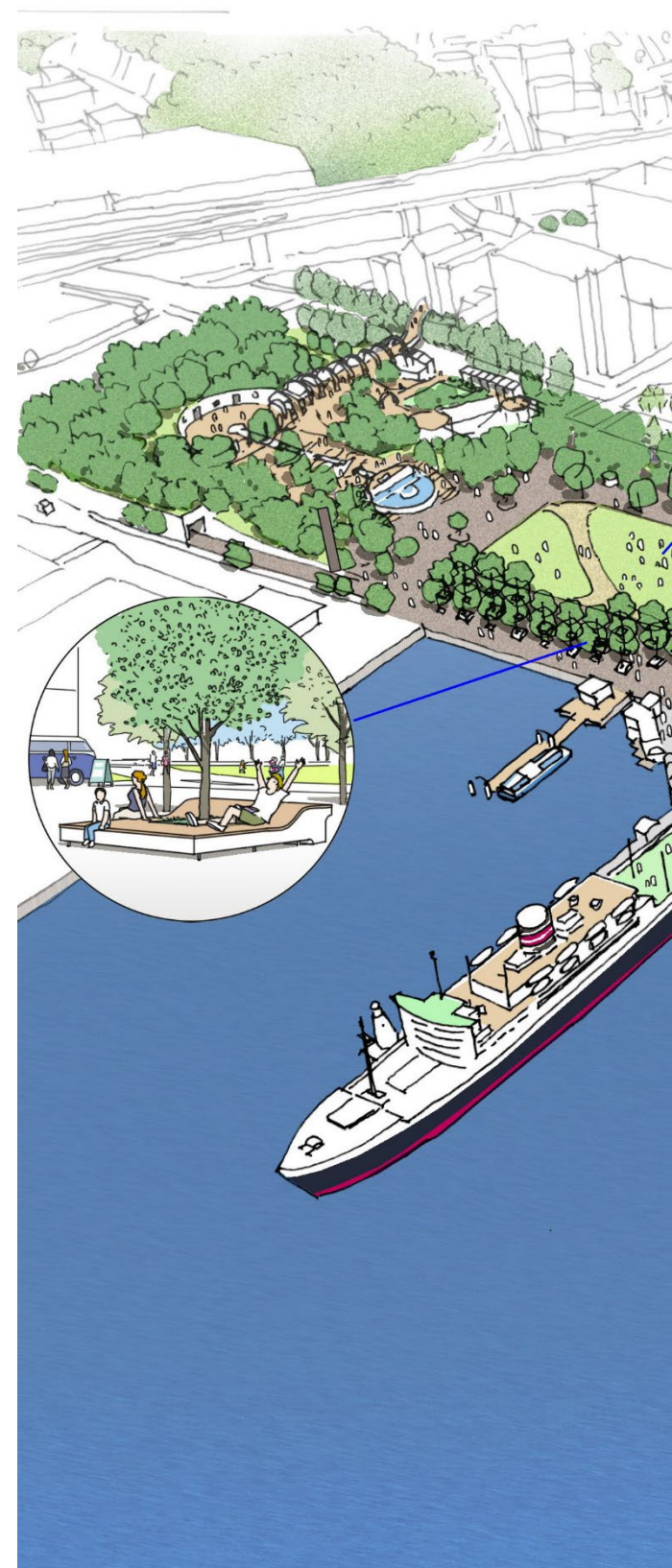
## 山下公園エリア

山下公園エリアは、ベイブリッジ、氷川丸を望む港の風景や、山下公園通りのイチョウ並木や歴史的な街並みなど、港町横浜を象徴する場所です。

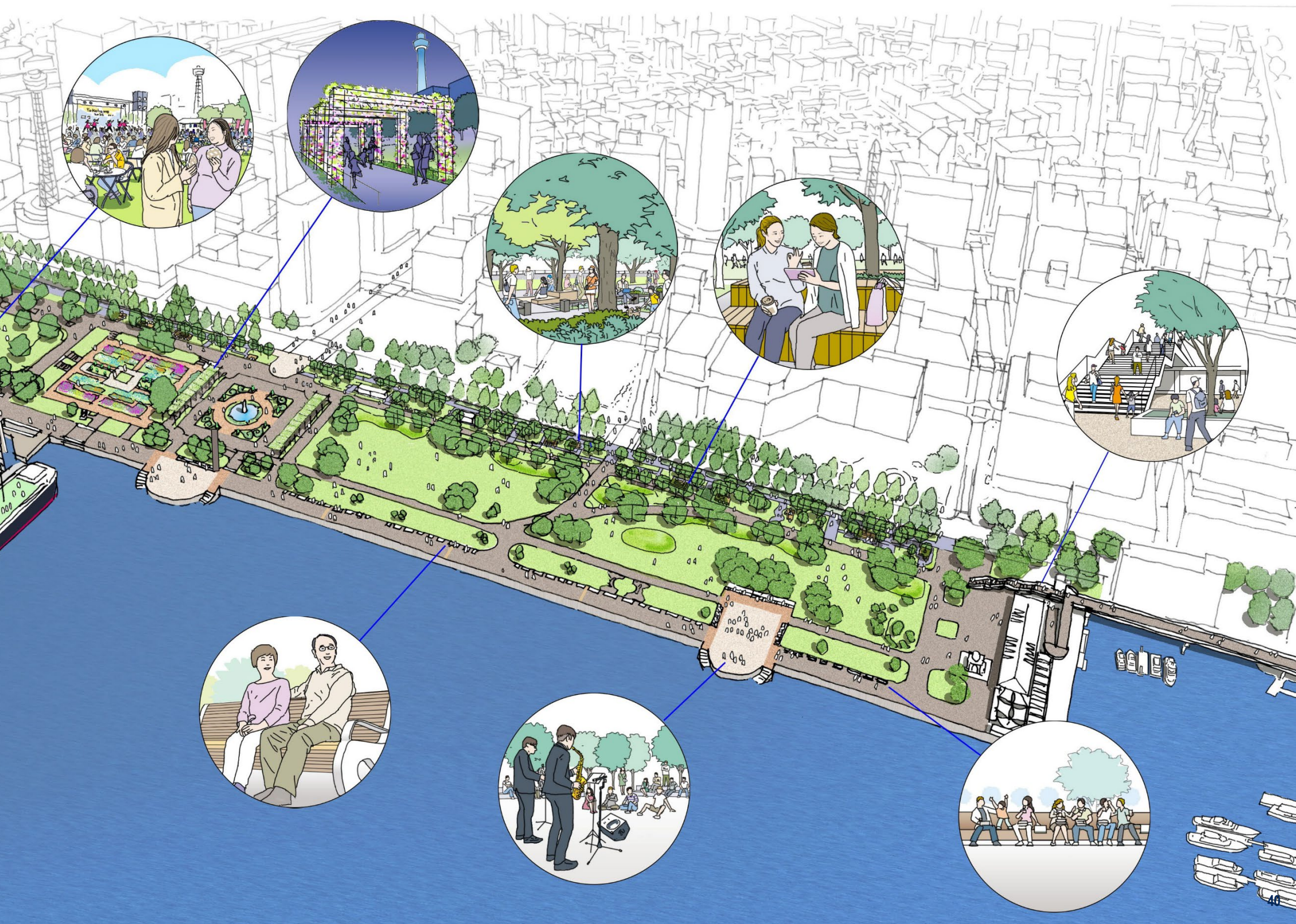
海への眺望や四季折々の花、山下公園通りの街並み等を楽しみながら、多様な過ごし方ができる空間へとアップグレードするために、公園と道路の一体感を生み出していきます。

多彩なイベントを開催しやすくすることで、多くの来街者を呼び込み、訪れた人々が一日を通して横浜らしさを満喫できるエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。









## 5. 山下公園エリア



view 01

象の鼻・赤レンガ方面へのアクセス性の向上



view 02







**view 03** : 港町ならではの過ごし方ができる空間の創出



## 5. 山下公園エリア



view 04 : イベント広場の更なる活用



view 05 : 山下公園と山下公園通りの一体感の創出







view 06 : 山下公園通りの街並みも楽しめる滞在空間の創出

### 移動を楽しむ環境づくり

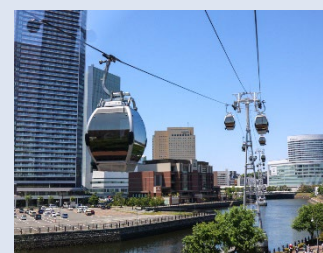


### 多彩なモビリティ

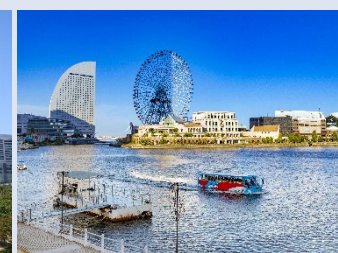
水際線の周辺には、バスや鉄道等の公共交通手段に加え、桜木町駅から自動車道へとつながるロープウェイや、観光地を結ぶ水上モビリティといった横浜らしさを感じられる移動手段があります。

また、シェアサイクルなどに加えて、今後は、歩道や公園・港湾緑地を通行できる歩行領域モビリティ(※)の活用などにより、誰もが楽しみながら移動できる水際線を目指していきます。

※歩行領域モビリティとは：歩行空間での利用を前提とした最高速度が時速6km/h程度の小型電動モビリティ（免許不要、道路交通法上、電動車いす等と同じ扱い）



ロープウェイ



水上モビリティ



歩行領域モビリティ